

『A』 『FAKE』

東京新聞社会部記者

森 達 也 ⊗ 望月衣 塑子



『新聞記者』は序章にすぎなかつた

今、あなたに問う。

1 新聞記者 ドキュメント



監督: 森達也

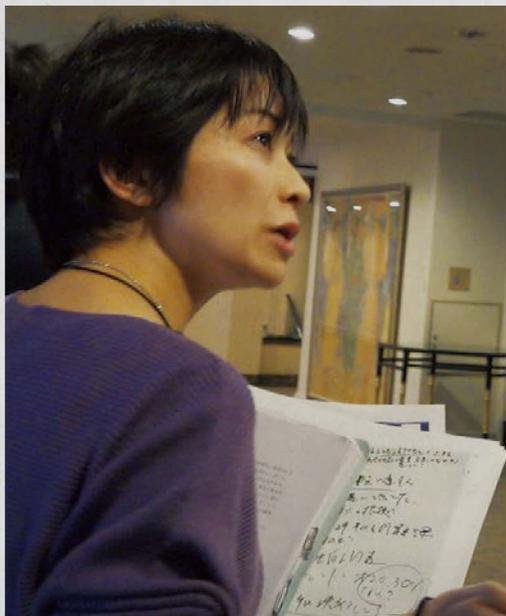
企画・製作: 河村光康 エグゼクティブ・プロデューサー: 河村光康 出演: 望月衣塑子 音楽: OAU 制作: スターサンズ 配給: スターサンズ
2019年/日本/約120分/カラー/ビスタ/ステレオ ©2019 i - 新聞記者ドキュメント - 製作委員会

i-shimbunkisha.jp

「フィクション」を越えた衝撃のリアル! 大ヒットを記録した『新聞記者』のプロデューサーが私たちが生きる“今”と“メディアの正体”に警鐘を鳴らす、新感覚ドキュメンタリー



官邸記者会見で鋭い質問を投げかける記者・望月衣塑子 なぜ彼女ばかりフューチャーされるのか？彼女は特別なのか？ メディアの有り様に一石を投じる社会派ドキュメント



蔓延するフェイクニュースやメディアの自主規制。民主主義を踏みしめる様な官邸の横暴、村度（むらど）に走る官僚たち、そしてそれを平然と見過ごす一部を除く報道メディア。そんな中、既存メディアからは異端視されながらもさまざまな圧力にも屈せず、官邸記者会見で鋭い質問を投げかける東京新聞社会部記者・望月衣塑子。果たして彼女は特別なのか？そんな彼女を追うことで映し出される、現代日本やメディアが抱える問題点の数々。

イター騒動の渦中にあった佐村河内守を題材にした『FAKE』などで知られる映画監督で作家の森達也。この国の民主主義は本当に形だけなのか、メディアはどうか、でも一方的なメディアの報道のあり方に疑問を呈し、情報により変容する日本社会を浮き彫りにした作品を多数発表してきた森達也監督の真骨頂ともいえる新たな手法で、望月記者の姿を通じて日本社会が抱える同調圧力や村度の正体を暴きます。

菅官房長官や前川喜平、籠池夫妻など、ここ数年でよくメディアに登場した渦中の人間

が続々と登場。報道では決して映し出されない、現代日本の真の姿。既存の社会派ドキュメンタリーとは一線を画する、新たな社会意識をもった前代未聞のドキュメンタリーが誕生した。



い — 新聞記者ドキュメント —

監督：森達也「A」「A2」「FAKE」

企画・製作・エグゼクティブ・プロデューサー：河村光康 出演：望月衣塑子 音楽：OAU 制作・配給：スターサンズ 2019年/日本/約120分/カラー/ビスタ/ステレオ

i-shimbunkisha.jp

©2019「い—新聞記者ドキュメント—」製作委員会

望月衣塑子記者の名前を、あなたはいった知っただろうか。官房長官の記者会見で質問を重ねる女性記者。同じ質問を何度もすると官邸スタッフに咎められたとき、「納得できる答えをいただいていないので繰り返しています」と彼女は即答した。とても当たり前のこと。でもその当り前の言葉が、ずっと僕の頭から離れない。

この国のメディアはおかしい。ジャーナリズムが機能していない。そんな言葉を日常的に見聞きするようになってから、もう何年が過ぎただろう。僕のこれまでの人生は、常にメディアと共にあった。そのうえで断言する。

あなたが右だろうが左だろうが関係ない。保守とリベラルも分けるつもりはない。メディアとジャーナリズムは、誰にとっても大切な存在であるはずだ。だから撮る。撮りながら考える。望月記者はなぜこれほどに目立つのか。周囲と違うのか。言葉が残るのか。特異点になっ

てしまっのか。
撮りながら悩む。考える。だから観ながらあなたにも考えてほしい。悩んでほしい。きっと最後には、あるべきメディアとジャーナリズムの姿が見えてくるはずだ。

— 森達也

11月15日(金) “リアル”を暴き出す — 新宿ピカデリー ほか 全国ロードショー